

# 昭和59年度(第18回)農業機械整備コース

## 実 施 要 領

昭和59年5月

国際協力事業団  
大阪国際研修センター

000  
838  
700

LIBRARY

## 1. コース名等

(1) コース名

農業機械整備コース

(Agricultural Machinery Maintenance and Repair Course)

コース・コード 84-A0081-01

(2) 研修期間

昭和59年6月14日～昭和59年12月22日

(3) 定員

10名

## 2. コースの目的・背景

(1) 目的

本コースの目的は参加研修員に農業機械に関する進んだ整備（保守及び修理）技術を授け、それぞれの職場で要求される技術管理／指導能力を向上させることにある。

(2) 背景

食糧増産の有力手段として導入する種々の機械を効率よく稼働させるため、多くの技術者の養成が要望されている。

JICA LIBRARY



1008837[5]

### (3) 沿 革

本コースは昭和42年に大阪国際研修センターが設立されるに伴い、農林（現農林水産）省のバックアップを受けて発足したものである。

初代の研修指導者には、当時農林省より大阪府立農林技術センターに転出していた農業機械専門家の村田利男氏があたった。

すでに茨城県内原の農業研修センターでは、稲作機械化コース（現）が実施されており、その性格はどちらかと言えば農学系の技術者が機械のアプリケーションを中心に研修を行うものであった。これに対し本コースは、工学系の技術者に機械のメカニズム、力学を中心とする研修を実施し、その維持管理が行える人材の養成を目的とするコースと色分けした。

そのため、メーカーでの実習を大巾に取り入れる必要が生じ、これが本コースの特色となった。幸いなことに当時多くの農業機械メーカーが研修施設、主力工場を関西圏にもっており、西日本だけで研修を実施できる状態にあった。

また講師には京都大学関係者を多数依頼し、農林省、メーカー、京都大学という協力体制が出来あがった。

なお、研修指導者には第6回目から京大教授 川村 登氏を委嘱し、村田氏には引き続き講師として御協力を頂いている。

技術移転を行う場合、援助国の当該産業が優れていなければ、被援助国から優秀な人材の参加は望めない。

本コースは当初農機具整備コースとして発足し、耕耘機、小型エンジンを中心に研修を実施してきたが、日本の農業機械産業の発展と共に四輪トラクターの比重が大きくなった。名称は昭和47年度から現在の農業機械整備コースと改められたが、現在に至るまでプログラムは稲作に使われる農業機械を中心に構成されている。

なお、昨年度から農地造成等に重要な役割を担うブルドーザ、パワーシャベルの研修を追加した。

こうして、本コースは昭和42年度の第1回から昨年度まで一度の休止もなく計191名の研修を受け入れてきた（個別枠研修員含む）。

なお、昭和52年度に本コースと稲作機械化コース修了者を対象に再研修コースを実施した。

昭和52年4月14日～同年6月12日

参加者 6名（内訳 本コース修了者3名、稲作機械化3名）

さらに、同年度後期に本コースと籾処理精米加工コース合同で帰国研修員フォローアップ事業の一環として巡回指導班を派遣した。

派遣期間 昭和53年2月7日～同年2月22日

派遣国 フィリピン、インドネシア、マレーシア

指導員 川村 登 教授

### 3. 到達目標

---

- (イ) ワークショップ（WORK SHOP）の管理が出来ること。
- (ロ) 仕様書を比較して（その数値の真偽を含め）機種を選定が出来ること。

### 4. 研修項目、研修方法

---

- (1) 研修項目（注 ○：含工場実習、△：含視察）

- イ. 講 義

- a. 日本の農業機械化施策

- b. 日本の農業機械産業
  - c. “ 農業機械利用状況
  - d. 工場管理、労務管理
  - e. 日本の中古農業機械市場
  - f. 農業機械利用と経済性
  - g. エンジン（ガソリン及びディーゼル） ○
  - h. 機械材料と加工法
  - i. 機械要素
  - j. 燃料及び潤滑油
  - k. 電気及び電動機 ○
  - l. トラクター ○ △
  - m. 耕耘機械 ○
  - n. 田植機 ○
  - o. 収穫機 ○
  - p. 土と耕耘 ○
  - q. 農薬と防除 ○
  - r. ワラ、牧草収穫機械 ○
  - s. 施肥、播種、除草機械 ○
  - t. 灌漑、排水 ○ △
  - u. 農用動力ポンプ ○
  - v. 乾燥機 ○
  - w. 籾摺、精米機 ○
  - x. 農業機械技術の今後の動向
- ロ. 実 習 [実 施 機 関]  
 a. 測定具の使用法 [ヤンマーディーゼル(株)]

- b. 単気筒及び多気筒ディーゼル・エンジン [ ヤンマーディーゼル (株) ]
- c. 空冷ガソリンエンジン [ 石川島芝浦機械 (株) ]
- d. 電装機器 [ 日本電装 (株) ]
- e. ブルドーザ及びパワーシャベル [ (株) 小松製作所 ]
- f. 耕耘機及びトラクター [ 久保田鉄工 (株) ]
- g. トラクター用作業機及び圃場実習 [ 高北農機 (株) ]
- h. 収穫調整用機械(バインダー等)  
及びトラクターの油圧システム [ 井関農機 (株) ]
- i. ポンプ [ (株) 西島製作所 ]
- j. 防除機 [ 有光工業 (株) ]
- k. 稲収穫圃場実習 [ 京都大学農学部 ]
- l. 農業機械試験及び測定法 [ " ]
- m. 乾燥機及び籾摺・精米機 [ (株) 佐竹製作所 ]
- n. アーク溶接 [ (株) 神戸製鋼所 ]

ハ. 視 察

ニ. カントリー・レポート及びテクニカル・ディスカッション

ホ. 試 験

ヘ. エバリュエーション

(2) 研修方法

本コースの特徴は研修用設備、指導員の整ったメーカーでの実習を各種機械について行うところにある。

その効果を上げるため、工場実習の直前に当該機械の、主として理論面の講義を実施している。

また、関連知識を与える一般講義、見学もメーカーとメーカーの間に入れ、

講義（含む見学）と実習がサイクルとなるようスケジュールを組み気持の切換えをしやすいようにしてある。

実習は、JICA側から研修項目を指定するが、実施面はメーカーの経験と Know - How に基づく各社独自の方式で行なって貰っている。

どのメーカーも実習だけでなく、理論講義も含んだカリキュラムを組んでいる。

## 5. 研修員参加資格要件

---

### (1) 応募要件

- イ. 所定の手続に基づき各国政府が推薦する者。
- ロ. 大学卒業者、もしくは同等程度の学力を有し、農業機械の整備、指導を実施している機関において管理、指導に従事する者で、当該分野において3年以上の経験のある者（エンジニアが望ましい）。
- ハ. 年齢40才以下の男子。
- ニ. 十分な英会話及び英文読解能力を有する者。
- ホ. 心身共に健康であること。

### (2) 人選方法及び選考基準

- イ. 前項の条件を満たすもの

#### 優先順位

- 1. 工学系の大学卒業者（エンジニア）
- 2. 農学系の大学卒業者（アグロノミスト）
- 3. 整備士（メカニック）
- ロ. 1カ国1名を原則とする。

- ハ. 定員を守る（定員割れはさける）。
- ニ. 再応募者（受入済みの者は除く）は優先度を高くする。
- ホ. JICAプロジェクトのカウンター・パートは定員を多少上まわっても受入れる。

### (3) 割 当 国

バングラデシュ、ビルマ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、スリランカ、タイ、エジプト、イラン、ガーナ、リベリア、ナイジェリア、ガイアナ、パラグアイ （計 14カ国）

## 6. 研修実施体制と実施機関

---

### (1) 国際協力事業団

#### イ. 大阪国際研修センター（OITC）

- a. 研修指導者の委嘱
- b. インフォメーション、日程の作成
- c. 研修協力機関との調整打合わせ
- d. 研修（実習）委託先（メーカー）への依頼、調整
- e. 講師、見学先への依頼
- f. 研修員選考
- g. 研修の評価
- h. 研修監理・業務の委託 → (財)国際協力サービス・センター
- i. そ の 他

#### ロ. 研修事業部センター業務室

- a. 外務省他との連絡調整



b. 来阪時までの研修協力、見学依頼

c. その他

ハ. 研修指導者

京都大学農学部 川村 登 教授

委嘱期間 昭和59年5月16日～昭和60年1月14日

- a. コースのコンセプト策定
- b. カリキュラム作成
- c. 講師、研修（実習）機関、見学先の推薦、紹介
- d. 研修員選考にかかる助言
- e. 来日研修員の当該分野知識測定
- f. 講義
- g. 研修効果の測定、評価
- h. 報告書の提出

(2) 研修（実習）担当メーカー〔研修項目 参照〕

- a. 委託項目についての研修
- b. 研修の評価
- c. 報告書の提出

(3) 研修協力機関

- イ. 農林水産省国際協力課及び肥料機械課
  - a. コースへの助言
  - b. 来日時の農林関係オリエンテーション、見学先設定
  - c. 講師の派遣
- ロ. 日本農業機械工業会
  - a. 会員各社の日程調整

b. 講師の派遣

上記3機関は研修開始に先立ち例年5月にOITCに於いて打合わせ会議を開き、研修項目に関する技術をどのレベルまで指導するか等の調整を研修指導者のコンセプトに基づき行なう。

## 7. 宿 舎

- (1) 国際協力事業団 大阪国際研修センター  
大阪府茨木市南春日丘5丁目1番28号  
電話 0726-23-0631
- (2) 研修(実習)担当メーカーの研修用宿舎
- (3) 一部地区 メーカー近辺のホテル

## 8. 研修用教材、資機材

(1) 教 材

- イ. Textbook of Agricultural Machinery, OITC, JICA
- ロ. 研修(実習)担当メーカーのテキスト、マニュアル類
- ハ. 講師作成の資料、スライド類
- ニ. 日本に於ける中古農業機械市場の現状

(2) 資機材等

研修(実習)担当機関の施設、機材を使用する。

## 9. 研修付帯プログラム

### (1) 集合ブリーフィング

当事業団が(財)国際協力サービスセンターに委託し、TICに於いて研修員に対し下記事項を実施している。

- a. 来日の翌日(日曜, 祭日は除く) 宿舎からTICまでの案内
- b. 事業団規則の説明
- c. 事業団登録書の記入(パスポート、ビザのチェック含む)
- d. 来日時使用した航空券の回収
- e. 銀行口座開設の手続き、キャッシュカードの支給及びその使用方法の説明
- f. 本人写真の徴収

### (2) 一般オリエンテーション

当事業団が国際交流サービス協会に一部委託し、下記プログラムを実施している。

来日が遅れた場合は、(1)がすみしだい途中から参加させている。

	時 間	内 容
第 1 日(月)	10:00 ~ 12:00	TIC 所長挨拶 JICA 事業説明
	13:30 ~ 14:15	TIC 業務等説明
	14:15 ~ 16:15	よりよい滞日生活のために
第 2 日(火)	10:00 ~ 12:00	日本の文化史
	13:30 ~ 14:30	日本の経済協力
	14:30 ~ 16:30	日本の人文地理
第 3 日(水)	10:00 ~ 12:00	日本の経済
	14:00 ~ 16:00	日本の行政機構
	16:15 ~ 17:15	日本紹介 Film 上映
第 4 日(木)	10:00 ~ 12:00	日本の言葉
	14:00 ~ 16:00	日本の教育
第 5 日(金)	9:00 ~ 13:00	都内見学(バス)

### (3) 日本語一般講座

#### イ. 目的及び目標

あいさつ、交通機関の利用、食事・買物をするなど生活の場で必要な日常会話の基礎を習得させることを目標としている。初歩的な日常会話を中心に基本的な文型・語いを習得させる。

#### ロ. 講義時間

7月2日～8月31日の間実施し、1回2時間(6:30 P.M.～8:30 P.M.)計約30時間

#### ハ. 参加形態

自由参加とする。

しかし、近年日本の経済力が上がるにつれ、日本語を習おうとする者は確実に増加している。

## 10. 研修の評価

研修の評価は、次のような方法で実施される。

- (1) 研修員によって書かれる最終報告書(Final Report)
- (2) テスト(来阪時及び中間)
- (3) 中間検討会
- (4) 最終評価検討会
- (5) 実施担当企業の報告書
- (6) 実施指導者の報告書

## 11. そ の 他

---

### (1) 研修員の待遇

#### イ. 入 国 資 格

日本で技術研修を受けるために来日する者（通常、入国査証コードは4-1-6-2であり、留学生とは完全に区分される）。

尚、日本滞在中は日本国法令の適用を受ける。

また、働いて収入を得ることは出来ない。

#### ロ. 滞 在 費

国際協力事業団の規定に基づき、日本政府から本コース研修員に滞在費、その他が支給される。

##### a. 各国の国際空港から東京間のエコノミークラスチケット

（帰国時は大阪国際空港から出国）

##### b. 国際協力事業団の研修センターにおける宿泊（朝食込み、無料）の他、

1日当り3,800円的生活費。

その他、仕度料（40,000円）、書籍費（17,000円）、資料送付料

（6,000円～25,000円 地域別）が来日時に支払われる。

##### c. 日本に到着後、発生した傷病に対する医療費

##### d. 研修旅行に伴う費用及び通勤費

（研修旅行中は宿泊費6,500円/日、生活費4,300円/日）

#### ハ. 修 了 証 書

このコースを修了した者に対し、国際協力事業団は修了証書を発給する。

### (2) 昭和59年度農業機械整備コース研修員名簿及びプログラム

（別 添）

